

Title	前田清著 日本の社会開発
Sub Title	
Author	原, 豊
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1965
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.58, No.4 (1965. 4) ,p.338(96)-
JaLC DOI	10.14991/001.19650401-0096
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650401-0096

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新刊紹介

前田 清著

『日本の社会開発』

社会開発という言葉が使われ出してからまだ日は浅いが、このところ佐藤内閣の一枚看板としてしばしば目や耳に触れるようになった。経済的發展からとり残された社会面のおくれ、いわゆる高度成長のひずみが表面化しつつある時期だけに、とりわけ社会開発の必要は大きく、これをたんに政治的なキャッチ・フレーズに止めるべきでない。佐藤首相も社会開発懇談会を設けてそうした気構えは示しているが、かけ声の大きなわりには採用された政策が総花的で微力なものとなり勝ちな過去の開発政策の経験を十分に反省し、今回は本腰を入れて検討実施して欲しいものである。

とはいえ、社会開発の具体的な内容について

ては、一般に、さほどはっきりとした受け取り方はされていないようである。これは一つには、わが国ではこの分野は比較的等閑視されてきた分野であり、二つには、この分野はきわめて広範囲なカバレッジをもつものであるため、現在にいたるまで部分的にはともかく総合的な検討がなされなかったことによる。

社会開発懇談会のメンバーたる前田清氏の手になる本書は、社会開発に関する総合的な文献としては最初のものである。その内容は、著者が国連の依頼によって提出された「日本における経済ならびに社会開発のための計画」という報告書の日本版ともいえるべきものであり、日本経済の発展とその社会開発とをできるだけ対比してとりあげ、理論的な総論と、国民生活全般にわたり実証的に社会開発の現状と問題を検討した各論とから成っている。平易かつ総合的な事実認識という基本的な立場に貫ぬかれているため、理論的・政策的な深い分析にまでは立至っていないが、社会開発支出を従来のような消極的な性格のものとみなさず、積極的に「投資的性格」に改変しようという著者の立場が総論の

なかで強調されている。いずれこうしたポイントがさらに専門的な業績として発表されることを期待したい。

ともあれ、本書には、都市計画、住宅、労働、農業、社会保障、さらに教育といった社会開発の個々の対象に関する資料が数多く含まれられ解説されている。社会開発に興味をもつ諸君が問題のヒントを得るには恰好の書物であろう。(春秋社・A5・二一六頁・一〇〇〇円)

—原 豊—